

2025 年 5 月 22 日作成 Ver.1.0

情報公開文書

在宅人工呼吸器のアラームに関連した事故に関する調査

研究の概要

【背景】

近年、医療の進歩により重症児の生命予後が改善している一方、日常生活に濃厚な医療を要する「医療的ケア児」が増加しています。医療的ケア児の中には、日常的に人工換気を要し、在宅人工呼吸器を必要とする患者も少なくなく、その数は年々増加しています。在宅人工呼吸器に関連した事故は患者さんの生命に直結するため、その詳細は把握することは重要です。一方で、その実態を詳細に調査した報告はなく、実態は不明です。在宅人工呼吸器は日常的に使用されるものであるため、アラーム音が日常生活を阻害しないようその設定に苦慮することが多いです。

【目的】

在宅人工呼吸器のアラームに関連した事故の実態を調査、把握することです。

【意義】

事故の実態が明らかにし、その実態を在宅医療にかかわる医療従事者に広く周知することにより、在宅人工呼吸器を使用中の患者への適切な対応が明らかになり、今後の改善につなげることができます。

【方法】

- ・本研究は長崎大学病院を研究機関、小児神経学会医療安全委員会の委員が所属する施設を既存情報の提供のみを行う機関として行います。
- ・まず一次調査アンケートを既存情報の提供のみを行う機関に対して行います。
- ・一次調査にて、在宅人工呼吸器のアラームに関連した医療事故レベル 3b 以上の事故、もしくは教訓的な症例を経験したことのある施設のうち、二次調査に同意を得られた施設に対して、アンケートを用いた二次調査を行います。
- ・既存情報の提供のみを行う機関はアンケートを研究機関である長崎大学病院へ提出します。（アンケートは Google フォームで行い、患者さんが特定できるような情報は収集しません）
- ・研究機関である長崎大学病院にて、アンケート結果の集計、解析を行います。

対象となる患者さん

在宅人工呼吸器のアラームに関連した医療事故レベル 3b 以上、もしくは教訓的な事故を経験した患者さんを調査対象とします。

研究に用いる情報	
● 研究に用いる情報 下記の情報を診療録より収集します。 【一次調査の内容】 在宅人工呼吸器患者の有無・患者数、在宅人工呼吸器のアラームに関するヒヤリハットや事故の経験の有無、件数、事故のレベルの内訳、二次調査への協力の可否 【二次調査の内容】 患者情報；基礎疾患、合併症、年齢、性別、医療デバイス（呼吸器や胃瘻）の有無自発呼吸の有無、ADL、事故の発生場所 事象の詳細；事故の具体的内容、対応・経過、考えられる要因 本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
情報の利用開始予定日	
本研究は研究機関長の許可日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。 あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2030年3月30日	
研究実施体制	
研究責任者	【代表機関】 所属：長崎大学病院 小児科 氏名：里 龍晴 住所：長崎県 長崎市 坂本 1 - 7 - 1 電話：095（819）7298 【当院】 所属：横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター 氏名：渡辺 好宏 住所：横浜市南区浦舟町 4 - 57 電話：045（261）5656

情報の管理責任者	【代表機関】 長崎大学病院 病院長 【当院】 横浜市立大学附属市民総合医療センター 病院長
情報のみを提供する機関 (二次調査対象機関)	詳しくは【研究内容・情報等の利用停止の申し出について】 に記載してある担当者へお問い合わせください。
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター 渡辺 好宏 〒232-0024 横浜市南区浦舟町4 - 57 電話：045(261)5656 FAX 045(253)5375	